

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 月 日		～ 2026年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの発達段階や特性に応じ、適切な難易度の活動を提供できている。	スモールステップ（課題の細分化）による支援を徹底し、お子様の発達段階に合わせた活動を提供している。また、役割を分担することで、主体的に取り組める環境づくりに努めている。	お子様同士が関わり合いを持てるよう配慮し、集団活動を通じてコミュニケーション能力や社会性の向上を支援している。
2	多才な専門知識を持つ職員が在籍しており、多角的な視点からお子様一人ひとりに適した多方面の支援を提供している。	多職種それぞれの専門的な視点を共有し、日々の支援会議等で意見を出し合うことで、お子様一人ひとりに最適なアプローチを実践している。	職員同士で得意な知識を教え合うミニ研修を行い、誰が担当しても質の高い『付加価値』のある支援ができるようにします。
3	現状に満足せず、新しい療育の手法や活動内容を積極的に導入し、支援のバリエーションを広げるよう努めている。	全職員が会議や現場で積極的に意見を出せる体制があり、チーム一丸となってお子様へのアプローチを検討できている。	出した案を試したあと、『実際どうだったか』を短時間で共有する場を作り、成功事例を職員全員の共通ルールにして支援の質を安定させます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々のプログラムが定型化しており、活動のマンネリ化が課題となっている。	児童の興味を引く内容を選定しているが、職員の得意分野や既存の枠組みに頼る傾向があり、提供するプログラムが限定的になっている。	外部の事例を参考にしたり、職員間で企画案を出し合う時間を増やすことで、活動のバリエーションを拡充していきます。
2	療育室内の緩衝材等の安全設備に経年劣化が見られる。	修繕が不十分のまま時間が経過し、再度の劣化を招いている。点検後の補修時期や方法を仕組み化できていないことが課題である。	定期的な設備点検を実施し、劣化した箇所は速やかに補修・更新することで、怪我のない安全な療育環境を整えます。
3	防災マニュアルは整備されているが、送迎中の災害発生など、多数の場面を想定した訓練が不足している。	実際の送迎ルートや車中での被災といった具体的なリスクの洗い出しと、それに基づく訓練計画が不十分であった。	今後は送迎ルート上の避難場所を再確認し、車中での被災を想定した避難訓練を計画的に実施することで、職員の危機管理意識と対応力を強化します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 りずむはーと中町

公表日 2026年3月5日

利用児童数 年 月 日 回収数 0

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。						
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。						
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。						
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。						
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。						

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。						
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。						
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。						
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。						
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。						
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。						
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。						
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。						
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。						
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。						
	29	事業所の支援に満足していますか。						

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		りずむはーと中町				公表日	2026年3月5日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		運動ができるスペースの確保をしている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		5名から6名体制で行っている		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		分りやすい環境設定を心がけている。その都度必要に応じて環境設定を変え対応している。バリアフリー化では、建築上出来ない箇所がある		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		動き回るスペースの確保がされている。荷物等ボックスを用意し視覚からの情報量を少なくする工夫をしている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			認められているが半個室的な空間となっている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		日々支援ミーティング実施や振り返りを行っている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	出来る限り改善するよう心掛け、保護者とコミュニケーションを図るよう心がけていく		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々のミーティングや振り返りのなかで行っている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	行っていない		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内外問わず、研修に参加している		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		保護者との面談で本人のニーズ、保護者のニーズを聞き取りを行い、職員参画のもと作成している		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		ミーティングには全職員が参加して作成に携わっている		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		日々のミーティングや振り返りの中で共有、確認を行うと共に今後の対応について検討している		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			その日に利用する児童に合うアプローチを考える会議を毎日行っている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎月の療育会議には全職員が参加し、立案に携わっている		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		体操、療育活動（四季や行事ごとを感じられる）年間プログラムを作成し、固定化しないようにしている		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		プログラムが中心なので個別活動がなかなか出ていないが、子供の個々の状態に合わせた対応を心がけている		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		必ず、終礼時に振り返りを行っている。参加しない職員に対しては後日共有している		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援当日までに計画を立て支援を行っている		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6ヶ月に1回は行っている。必要に応じて、随時保護者からの聞き取りを行っている		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		活動の中で積極的に自己選択の場面を作るように心掛けている		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6				
	28	(28～30は、センターのみ回答)				送迎時、または必要に応じてケース会議を行っている	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				情報共有は行っているが、移行支援としては行っていない。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				情報共有は行っているが、移行支援としては行っていない。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			6			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6					
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			6			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6					
	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6					

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		面談や送迎時など適宜対応している		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		できていない		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		出来る限り対応していく	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			年間プログラムの配布。週に1度のFacebookやInstagramへの更新を行っている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			鍵付き書庫に保管している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			分りやすく、的確に心をかけている	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			行っていない	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		注意喚起の書面を配布しているが、想定訓練はできていない	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	5		火災、防犯、災害での訓練を、年に数回行っている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			保護者からの聞き取りを行い、服薬の種類、てんかん児童が直ぐに確認ができるよう一覧表を作成している。定期的に服薬の確認をしていく	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			アレルギー児が分かるよう、お皿の色、形を変えている。基本アレルギー児が食べられる食材を使用している。医療機関でエビベン研修を行っている	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			日々記録を残し、今後の対策を考え対応している。また月に一度振り返る事で更なる意識作りを心がけている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			社内外問わず、研修に参加している	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			説明はしているが、現在対象児童がいらない為記載していない	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				